

# 活 動 報 告

## 平成18年度 活動報告

### 1. 教育実践総合センターの概要

#### (1) センター設立の趣旨

21世紀を迎え、国際化・情報化の進展、科学技術の発達、少子化・高齢化の進行、環境問題等、現代社会は複雑化・深刻化してきており、未来を生きる子どもたちの教育についても混迷を深めてきている。学校教育も大改革の時代を迎え、新しい教育課程の創造、総合的学習、学力問題、特別支援教育など新しい課題に直面している。子どもを取り巻く状況もいじめや不登校の益々の深刻化、低学年での学級崩壊や教師に対する暴力、アスペレーション・クライシス等々の早急に対応しなければならない課題を突きつけてきている。

本学教育実践総合センターは、こうした学校教育を取り巻く諸問題に現実的に対処すべく、旧教育工学センターと旧教科教育センター（学内措置による）とを発展的に改組して、平成9年度に設立された。

#### (2) センターの目的

センターは、“教育実践及び教育臨床にかかわる理論的、実践的並びに実際的研究を行うとともに、学校教育諸問題に適切に対処することのできる教員並びに教育実践の指導者の養成に寄与すること（愛知教育大学教育実践総合センター規程第2条）”を目的としている。

#### (3) センターの構成

このセンターは2部門3分野（教育実践基礎研究部門－教科教育研究分野、教育臨床研究部門－発達支援基礎研究分野・教育臨床分野）からなり、教授1、講師1、客員助教授2（愛知県教育委員会並びに名古屋市教育委員会から各1）の教員組織と事務職員1、事務補佐員1の事務組織および学内外の研究員および研究協力員とによって運営されている。

平成18年度の各分野の研究員、研究協力員の人数は下表の通りである。

部 門	分 野	研 究 員			研究協力員
		学内	附属学校園	合計	
教育実践基礎研究部門	教科教育研究分野	50	1	51	49
教育臨床研究部門	発達支援基礎研究分野	14	0	14	9
	教育臨床分野	9	0	9	45

### 2. 研究活動

センターでは先に述べた、2名の専任教員と2名の客員助教授及び多数の研究員・研究協力員が教育研究に従事している。今年度は、主に次のような活動を行った。

#### ◎教育実践基礎研究部門

##### <教科教育研究分野>

#### (1) 運営

本年度は専任教員が転出し不補充であるため、2006年2月27日にメンバーが集まり、メンバーが下記のように任務を分担してこの分野を運営していくことにした。なお、代表は川上昭吾とした。

- ① 人材データベース …………… 官川秀俊
- ② スコープ編集・発行 …………… 野田敬敏
- ③ 大学一附属学校連携 …………… 川上昭吾
- ④ 学内外を集めた研究会 ……… 船尾日出志
- ⑤ センター紀要の編集 …………… 山田篤史
- ⑥ 教科書収集整理 …………… 橋本尚美

#### (2) 人材データベース

平成19年度版は、学校側から見たときに記載内容が具体的でわかりやすいように改訂して発行する。

#### (3) スコープ編集・発行

学習指導要領の改定があるため、それについて特集することとした。

#### (4) 大学一附属学校連携

愛知教育大学・附属学校共同研究会の運営について、附属学校部長・課長、センター長、学部支援課長・教育

実践係長が協議し、本年度から附属学校部からセンターに移管することになった。それを受けて、センター長から直接的な実行を「教科教育研究分野」が担当するよう依頼があった。

愛知教育大学・附属学校共同研究会の参加者数は、大学教員の延べ数は145人、実数119人、附属学校教員の延べ数は257人、実数180人、両者合わせると延べ402人、実数では299人である。

全体研究会は、2005年8月18日（金）に、大学の安全教育シンポジウムの後の午後3時から開催された。なお、各分科会毎の研究会は随時開催された。

本報告書は、本年度（平成18年度）から電子媒体で発行する。

#### （5）研究会

下記のように精力的に研究会を開催した。

第1回：060522 船尾日出志

「わたしはこんな授業ビデオを使って教科教育の授業を行っています」

第2回：060619 野村和雄

「わたしはこんな授業ビデオを使って教科教育の授業を行っています」

第3回：060724 中野真志

「わたしはこんな授業ビデオを使って教科教育の授業を行っています」

第4回：公開シンポジウム：060816

「わたしの授業分析・授業研究、その成果を後継世代にどのように伝達するのか」

パネラー：五十嵐可朗先生 愛西市立佐屋小学校教頭

西川 純先生 上越教育大学 学習臨床コース教授

木村博一先生 広島大学大学院教育学研究科教授

市川正孝先生 安城市立錦町小学校教諭

特別報告者（「6年一貫コース」と「市民参画型教員養成……」について報告も兼ねて）：

上屋武志（愛教大社会科教育講座）

司 会：船尾日出志

第5回：061225 船尾日出志

「教員養成を意識した専門（2年生用倫理学）の授業」

第6回：（計画中）

#### （6）センター紀要

教育実践総合センター紀要（第10号）を編集発行した。

#### （7）教科書収集整理

本年度も引き続き教科書の収集と整理を行った。

#### ◎教育臨床研究部門

<発達支援基礎研究分野>

#### 分野研究会

第1回研究会（7名参加）／5月31日（水） 16：00～

1）平成17年度活動報告および会計報告

2）平成18年度活動計画

3）教育実践総合センター主催シンポジウムについて

第2回研究会（5名参加）／6月21日（水） 16：00～

1）教育実践総合センター主催シンポジウムについて

第3回研究会・シンポジウム（43名参加）／11月26日（日） 13：30～

愛知教育大学教育実践総合センター発達支援基礎研究分野シンポジウム

「子育ての社会的支援の広がり求めて～児童虐待・発達障害と家族」

講演（1）多田元 氏（弁護士・NPO「子どもセンター パオ」代表）

「子どもセンター パオ」と新しい子ども支援

講演（2）細江逸雄 氏（情緒障害児短期治療施設「愛知県立 ならわ学園」園長）

「虐待・発達障害の子ども達への支援」を通して家族関係を考えるパネルディスカッション

パネリスト：多田 元 氏 細江逸雄 氏 山根真理 氏（愛知教育大学 家政教育講座）

内田 良 氏（愛知教育大学 学校教育講座）

司 会：川北 穂（愛知教育大学 教育実践総合センター）

「SOBA」による学習会（毎週火曜日：いじめ・不登校などについて）

「SOBA」秋大学習会

第1回／5月30日（火）17:00～

「自分と子どもを守る『性の健康教育』」（講師：勇気づけの子育て隔だまりの会 斎藤美紀氏）

第2回／7月4日（火）17:00～

「『弱者』としての非行少年」（講師：非行と向き合う親たちの会 井上福子氏ほか）

第3回／10月17日（火）17:00～

「児童養護施設を知っていますか？～養護施設からみた子どもの虐待」（講師：児童養護施設 中央有鄰学院 立花篤志氏）

<教育臨床分野>

教師等との共同研究会

愛知学校教育相談事例研究会（毎月第2金曜夜間、夏期・冬期合宿各1）

愛知学校カウンセリング研修会（毎月第1・3金曜夜間）関連文献の精読および事例検討

愛知教育大学心理療法研究会（毎月第3木曜夜間）

安城市子ども理解のための事例研究会（毎月第1火曜夜間）

附属学校園との共同研究会（いじめ・不登校・学級崩壊等プロジェクト）

第1回研究会（20名参加）／6月28日（水）14:00～16:30

〔事例発表〕 相談期間中にひき逃げ事故にあった広汎性発達障害を持つ中3女子の事例

第2回研究会（23名参加）／7月26日（水）14:00～16:30

〔事例発表〕 不登校小4男子の遊戯療法

第3回研究会（15名参加）／9月27日（水）14:00～16:30

〔事例発表〕 友達のことを盗み取ってしまうことを主訴とした小6女兒との遊戯療法

第4回研究会（18名参加）／10月25日（水）14:00～16:30

〔事例発表〕 登校しぶりの小2女子の母親面接過程

第5回研究会（20名参加）／11月22日（水）14:00～16:30

〔事例発表〕 アスペルガーと診断された小4男児の遊戯療法

第6回研究会（20名参加）／12月20日（水）14:00～16:30

〔事例発表〕 盗みを主訴とする小1男児のプレイセラピー

第7回研究会（20名参加）／1月24日（水）14:00～16:30

〔事例発表〕 小学4年いじめ不登校女児との面接過程

### 3. センター教員の学部・大学院教育への参与状況

教員名	担当教科	必・選	単位	学年	人数	備考
生島博之	こころとからだセミナー	選	2	3	50	学部（3人で分担）
	臨床心理実習Ⅰ	必	1	M	23	学校教育臨床専攻
	臨床心理実習Ⅱ	必	1	M	23	学校教育臨床専攻
	臨床心理面接Ⅰ（昼）	必	2	M	14	学校教育臨床専攻
	臨床心理面接Ⅰ（夜）	必	2	M	4	学校教育臨床専攻
	臨床心理面接Ⅰ（夜）	必	2	M	3	学校教育臨床専攻
	サテライト					
	非行心理学特論	選	2	M	16	学校教育臨床専攻
	修論指導（特別研究Ⅰ）	必	2	M1	3	学校教育臨床専攻
	修論指導（特別研究Ⅱ）	必	2	M2	4	学校教育臨床専攻

なお、学校教育臨床専攻では、当センター心理教育相談室での臨床実践（教員が院生とペアで相談ケースを担当すること）を、授業（講義、演習、実習）と同程度に必修としており、1年間（平成17年11月～平成18年12月）に510時間の心理教育相談（カウンセリング）を実施した。そして、これらのケースに関する指導院生などへの個人スーパービジョンを24時間実施した。それ故、計534時間をコマ数（1.5時間×15回）に換算すると23.7コマを担当したことになり、学部および大学院の授業をプラスすると32.2コマ担当したことになる。

教員名	担当教科	必・選	単位	学年	人数	備考
川北 稔	教育の社会的研究	必	2	2	67	学部教育科目
	平和と人権セミナー	選	2	3	23	学部教育科目
	平和と人権入門	選	2	1	6	学部教育科目

#### 4. 教育事業

センターでは、本年度に次の教育事業を行った。

##### ①教師等のための公開講座の実施

『学校教育臨床－事例研究A－』（18.6.17.～19.3.17. 全9回27時間、主任講師：生島博之、参加者17名）

『箱庭づくり体験』（17.6.18. 9時間、主任講師：生島博之、参加者29名）

『学校教育臨床－事例研究B－』（18.6.24.～19.3.3. 全9回27時間、主任講師：生島博之、参加者8名）

『教育臨床セミナー』（18.8.21.～18.8.23. 3日集中17時間、主任講師：佐藤勝利、参加者25名）

『聞いて学ぶ、動いて学ぶ、総合的学習の理論と実践』（全3回9時間、参加者10名）

##### ②附属岡崎中学校及び附属名古屋中学校でのスクールカウンセリングの実施

(17.12.5.～18.11.27. 全40回199時間)

##### ③教育臨床分野による教育事業

実践力の優れた臨床心理士を養成するために、学校教育臨床専攻の臨床心理士教員および客員教員との合同で、臨床心理学コースの大学院生の臨床実習として、ケースカンファレンスを実施してきている。さらに、修了生へのアフターケアとして心理療法研究会を行い、グループ・スーパービジョンもおこなっている。

一方、学部生に対しては、将来に教員をめざすもの等を対象として、不登校児童・生徒へのボランティア（訪問支援・適応指導教室など）に関心があり、学外活動支援実習室に登録した学生に対して、学習会を開いて研修を行い、時期をみて実習希望先に派遣している。（なお、下記の表は平成18年度に参加した学生の数を示している）

	修了生	M2	M1	4年	3年	2年	1年	合計
ケースカンファレンス①	1	24	14					39
ケースカンファレンス②	2		12					14
心理療法研究会	15							15
学外活動支援実習室				7	6	4	3	20

1) ケースカンファレンス①（センター協力員・院生スタッフ対象、39名）15回 教員3名～8名

2) ケースカンファレンス②（いじめ・不登校・学級崩壊プロジェクトを兼ねる）7回 教員3名 院生10名  
内地留学生4名 附属中学校・高校教員3名

3) 愛知教育大学心理療法研究会 毎月1回 臨床心理士（愛知教育大学大学院学校教育臨床専攻  
臨床心理学コース修了生ほか）10名

4) 学外活動支援実習室学習会 隔週火曜日（4限）・金曜日（4限）将来に教員をめざす学生ほか10名

5) 愛知学校教育相談事例研究会 毎月1回（含合宿研修＝夏期・冬期）小中高教員等30名

6) 愛知学校カウンセリング研修会 毎月2回 小中高教員等10名

#### 5. 相談事業

本年度に、教育実践総合センターでは、以下の相談活動を行った。

##### 1) 電子メール、FAXによるいじめ相談

「SOBA」(Symposium of Bullying in Aichi: 学生を主体とした「いじめ」に関するボランティア活動)による電子メール・FAXを利用した相談活動（4月から1月までに22件の受信内容に対する返信）

事項	対象	件数	時間	担当者等
電子メール、FAXによるいじめ相談「SOBA」	一般	22	随時	川北 稔、SOBAメンバー

## 2) 面接教育相談

センター教育臨床分野が中心となり、愛知教育大学教育実践総合センター心理教育相談室を運営してきた。ここでは、いじめ・不登校をはじめとする面接教育相談に応じてきており、毎週1回1時間の親子併行面接を基本として、カウンセリング、箱庭療法、プレーセラピー、等の技法を用いたインテンシブな心理療法を行ってきた。

同時に、この面接教育相談は学校教育臨床専攻臨床心理学コースの大学院生の臨床教育の場にもなっており、臨床心理士資格をもつ教員（センター教員並びにセンター研究員）が個人スーパービジョンをしながら、大学院生にも担当させてきた。また、ほぼ月3回の割合でケースカンファレンスを持ち、ケース検討を行う中で、大学院生の臨床教育の一環としてのグループ・スーパービジョンに充ててきた。

本年度（平成17年12月1日～18年11月30日）の面接教育相談の概要は以下の通りである。

事項	対象	人数	時間	担当者等
①外来面接相談	一般	193	2,430	生島博之、他学内臨床心理士教員
②対教師等相談	教師等	78	128	
内訳：				
①外来面接相談				
受付ケース数	133 (193人)		総面接回数	2,430回
前年度からの引継ぎ	71 (98人)		総面接時間	2,430時間
新規受付	62 (95人)		面接回数範囲	1～47回
<問題別>				
不登校・不登校傾向	47		家庭内暴力	3
対人関係の問題	13		いじめられ	5
場面緘黙	2		自己臭	0
遺尿・吃音・チック	1		強迫傾向	2
発達障害	15		リストカット	1
感情のコントロール	4		対人恐怖症	3
非行・怠学	8		摂食障害	3
落ち着きがない・易怒性	6		過呼吸	1
生活の乱れ	3		家族関係の問題	6
自分（の性格）について	2		その他	8
<面接形態別>				
単独面接（本人）	15		父母子併行面接	9
親（母）面接	20		母子併行面接	68
父子併行面接	5		その他	16
<年齢区分別>				
幼児	1		高校生、16～20歳	19
小学生	45		成人	9
中学生	30		親による子の相談	89
<帰結別>				
終結	37		中断	0
継続中	86		経過観察	10
②対教師等相談				
受付ケース数	85		総面接回数	85回
前年度からの引継ぎ	3		総面接時間	128時間
新規受付	82			
<問題別>			<帰結別>	
幼稚園・保育園学級運営	1 (1人)		終結	82
学級運営	48 (42人)		継続中	3
スクールカウンセラーへのスーパービジョン	7 (5人)			
電話相談員へのスーパービジョン	7 (7人)			
適応指導教室指導員へのスーパービジョン	7 (7人)			
病院・クリニックのスタッフへのスーパービジョン	10 (3人)			
その他	5 (5人)			

## 6. 地域・教育委員会等と連携した活動

センターでは、本年度に地域・教育委員会等と連携して、次の活動を行った。

### ①愛知県教育委員会派遣教員内地留学生4名の臨床教育（大学院レベルの受け入れ）

- 鮫谷 しのぶ 「学校教育相談の定着に向けて」  
 —本校の現状をふまえた体制づくりを考える—
- 辛 島 真 一 「初任者教員のメンタルヘルスについて」  
 —アンケート調査結果より—
- 横 地 武 「予防・開発的な教育相談の見地から見た部活動のあり方」  
 —生きる力・心の発達の具体的支援—
- 米 本 かおり 「高校生の人間関係づくりへの興味・関心を高める取り組みについて」  
 —グループ・アプローチの実践を通して—

### ②県・各市教育委員会との連携

- |  |         |
|--|---------|
| 1) 名古屋市立戸笠小学校・校内研修会（講師：中川美保子、参加者30名）   | 6月8日    |
| 2) 三重県立伊勢工業高校・校内研修会（講師：中川美保子、参加者40名）   | 6月28日   |
| 3) 三重県立神戸高等学校・第1回教育相談研修会<br>（講師：中川美保子、参加者50名）  | 7月1日    |
| 4) 安城市製の里小学校・現職研修（講師：生島博之、参加者15名）  | 7月12日   |
| 5) 愛知県総合教育センター・学校教育相談中級講座<br>（講師：廣澤愛子、参加者20名）  | 7月13日   |
| 6) 豊明市初任者研修・箱庭療法の理論と実習（講師：生島博之、参加者9名）  | 7月31日   |
| 7) 三重県総合教育センター・平成18年度教育相談専門研修講座<br>（講師：中川美保子、参加者7名）  | 8月4日    |
| 8) ウイル愛知・平成18年度愛知県教育職員免許法認定講習<br>（講師：中川美保子、参加者40名）   | 8月8日～9日 |
| 9) 三重県総合教育センター・平成18年度教育相談専門研修講座<br>（講師：中川美保子、参加者8名）  | 8月28日   |
| 10) 三重県総合教育センター・平成18年度教育相談専門研修講座<br>（講師：中川美保子、参加者6名）                                       | 8月29日   |
| 11) 名古屋市立味鋤小学校・現職研修「発達障害について」<br>（講師：菊島勝也、参加者30名）  | 9月8日    |
| 12) 名古屋市戸笠小学校・校内研修会（講師：中川美保子、参加者30名）   | 9月14日   |
| 13) 豊田市長生教育講座（講師：生島博之、参加者25名）  | 9月19日   |
| 14) 豊橋市生活家庭館・家庭教育講座（講師：中川美保子、参加者40名）   | 9月26日   |
| 15) 愛知県立豊野高校・現職研修「発達障害について」<br>（講師：菊島勝也、参加者20名）  | 10月5日   |
| 16) 西三東地区高等学校教育相談部会（講師：生島博之、参加者20名）  | 10月6日   |
| 17) 愛知県総合教育センター・学校教育相談上級講座事例研究<br>（講師：生島博之、参加者20名）   | 10月11日  |
| 18) 名古屋市立清水小学校・現職研修「総合的な学習について」<br>（講師：菊島勝也、参加者30名）  | 10月16日  |
| 19) 三重県名張市立名張中学校・校内研修会（講師：中川美保子、参加者40名）  | 10月18日  |
| 20) 三重県志摩市磯部生涯学習センター・平成18年度教育相談担当者・教育支援<br>センター担当者・スクールカウンセラー等支援地域研修会<br>（講師：中川美保子、参加者40名） | 10月20日  |
| 21) 名古屋市教育館・平成18年度「教師のためのカウンセリング講座」<br>（講師：中川美保子、参加者25名）                                   | 11月19日  |
| 22) イズム・エル・ナゴヤ 「子育て世代に建築士は何を提案できるのか」<br>（講師：中川美保子、参加者30名）                                  | 11月23日  |
| 23) 定時制・通信制高校いきいきフェスティバル／「今、不登校を考える」<br>（講師：生島博之、参加者30名）                                   | 11月25日  |

- |  |        |
|--|--------|
| 24) 安楽市不登校対応研修会（講師：中川美保子，参加者60名）                       | 11月29日 |
| 25) 島根県立松江教育センター・平成18年度学校教育相談実践講座<br>（講師：中川美保子，参加者40名） | 11月30日 |
| 26) 西三北地区生徒指導研究会教育相談部会（講師：生島博之，参加者15名）                 | 12月5日  |
| 27) 名古屋市教育センター・特別教育相談員研修（講師：生島博之，参加者20名）               | 12月13日 |
| 28) 名古屋市立御田中学校・初任者研修（講師：中川美保子，参加者4名）                   | 12月14日 |
| 29) 鳥羽市商工会議所・教育相談担当者支援地域研修会<br>（講師：中川美保子，参加者50名）       | 1月12日  |
| 30) 豊田市立小・中学校役職者研修会（講師：生島博之，参加者102名）                   | 1月16日  |
| 31) 三好町立三吉小学校・講演&事例検討（講師：廣澤愛子，参加者18名）                  | 2月4日   |
| 32) 名古屋市立相原小学校・現職研修「児童思春期の子育てについて」                     | 2月12日  |
| 33) 幸田町立荻谷小学校・校内生徒指導研修会（講師：中川美保子，参加者30名）               | 2月15日  |
| 34) 岡崎市立竜南中学校・講演&事例検討（講師：廣澤愛子，参加者20名）                  | 2月21日  |
| 35) 伊勢まなび高等学校・生徒対象講演会（講師：中川美保子，参加者70名）                 | 3月13日  |
- ③県・各市教育委員会のいじめ・不登校・問題行動対策委員会への協力（愛知県，同尾張教育事務所，名古屋市，豊田市，刈谷市，知立市，安城市，西尾市ほか）
- ④「学校教育支援データベース」による愛知県内小・中学校を主とする校内研修会講師，保護者会講師，児童・生徒向けの講師等の紹介（18年1～12月の依頼件数40件）
- ⑤不登校児童・生徒への学生ボランティアの派遣（愛知県：ホームフレンド，岩倉市・江南市：メンタルフレンド，西尾市：チア・フレンド，豊田市青少年相談センター：ユースワーカーほか）
- ⑥SOBAメンバーによる，フリースクール「クツナ池の原センター」（田原市）でのボランティア活動（8月17日～20日）
- ⑦名古屋中学高校父母懇談会「りんどうフォーラム」「アイ・メンタル事件から考える若者の自立支援」（講師：川北 稔）10月1日
- ⑧豊橋市保健所「ひきこもりかなと思ったら～ひきこもりの理解と家族の対応」（講師：川北 稔）11月30日
- ⑨名古屋市生涯学習推進センター 愛知教育大学連携講座「研究最前線！大学の知を学ぶⅡ」（講師：川北 稔）12月14日

## 7. 教育実践総合センター刊行物

センターでは，本年度に次の刊行物を刊行した。

- 1) 『愛知教育大学教育実践総合センター紀要』第10号（平成19年2月）
- 2) 『SCOPEⅡ』第10号（平成19年3月）
- 3) 『学校教育支援データベース－Ver.6－』（平成19年3月）
- 4) 『公開シンポジウムの記録』（平成19年2月）
- 5) 『教育臨床事例研究』第16号（平成18年10月）
- 6) 『教育臨床事例研究』第17号（平成19年3月）
- 7) 『教育臨床学研究』（愛知教育大学教育実践総合センター心理教育相談室紀要）8号（平成19年3月）
- 8) 『SOBA活動報告書』第4号（平成19年3月）
- 9) 『子育ての社会的支援の広がり求めて（シンポジウム報告書）』（平成19年3月）

## 8. その他の活動

その他，センターでは，本年度に次の活動を行った。

- 1) 「学校教育支援データベース」の作成とその活用（愛知県内小・中学校の教師，保護者，児童・生徒向けの支援の紹介）
- 2) 教科書データベースの管理

## 9. 事業日誌

- |       |                                   |
|-------|-----------------------------------|
| 4月7日  | 愛知学校カウンセリング研修会（以降毎月2回開催，対象：教員等）   |
| 4月14日 | 愛知学校教育相談事例研究会（以降毎月1回開催，対象：教員等）    |
| 4月20日 | 愛教大心理療法研究会（以降毎月1回開催，対象：OB臨床心理士ほか） |



4月22日	ケースカンファレンス（以降毎月2回の頻度で開催）
4月28日	第1回教育実践総合センター委員会
5月22日	第1回教科教育研究分野研究員会議・研究会
5月31日	第1回発達支援基礎研究分野研究会
6月4日～7月2日	公開講座「聞いて学ぶ、動いて学ぶ、総合的学習の理論と実践」（全3回、対象：教員）
6月17日～3月17日	公開講座「学校教育臨床―事例研究A―」（全9回、対象：教員・保育士等）
6月18日	公開講座「箱庭づくり体験」（対象：一般）
6月19日	第2回教科教育研究分野研究員会議・研究会
6月21日	第2回発達支援基礎研究分野研究会
6月24日～3月3日	公開講座「学校教育臨床―事例研究B―」（全9回、対象：教員・保育士等）
7月24日	第3回教科教育研究分野研究員会議・研究会
8月17日～20日	フリースクール「ツツナ池の原センター」でのボランティア活動
8月22日	第1回教育臨床分野研究会
8月21日～23日	公開講座「教育臨床セミナー」（対象：教員等）
9月16日	第4回教科教育研究分野研究員会議・シンポジウム「わたしの授業分析・授業研究、その成果を後継世代にどのように伝達するのか」
10月	「教育臨床事例研究」第16号発行
10月21日～22日	愛知学校教育相談事例研究会宿泊研修（井ヶ谷荘）
11月7日	センター紀要編集委員会
11月26日	第3回発達支援基礎研究分野研究会・シンポジウム「子育ての社会的支援の広がり求めて」
12月25日	第5回教科教育研究分野研究員会議・研究会
2月	第2回教育実践総合センター委員会 第6回教科教育研究分野研究員会議・研究会
2月下旬	「愛知教育大学教育実践総合センター紀要」第10号発行 「公開シンポジウムの記録」発行
3月	平成18年度教育実践総合センター運営協議会 「SCOPE II」（教科教育研究分野ニュースレター）No.10発行 「学校教育支援データベース―Ver.6―」発行 「教育臨床事例研究」第17号発行 「教育臨床学研究」（センター心理教育相談室紀要）第8号発行 「SOBA活動報告書」第4号発行 「子育ての社会的支援の広がり求めて（シンポジウム報告書）」発行

平成19年2月25日 印刷

平成19年2月28日 発行

**愛知教育大学教育実践総合センター紀要 第10号**

発 行 者 愛知教育大学教育実践総合センター

刈谷市井ヶ谷町広沢1

電話〈0566〉26-2316（ダイヤルイン）

印 刷 所 シ ル バ ー 印 刷 有 限 会 社

刈谷市中山町1-15

電話〈0566〉21-1331HQ